

レース報告

[1]大会名 第 29 回宮城国際トライアスロン仙台ベイセッ浜 2023
(2023JTUトライアスロンエイジグループナショナルチャンピオンシップシリーズ対象大会)

[2]開催日 2023 年 7 月 2 日(日) スタート 09:00

[3]開催地 宮城県仙台市セッ浜町

[4]競技情報 スタANDARDディスタンス

スイム 1.5km (750m×2 周)、バイク 40km (13Km×3 周)、ラン 10km (2.5Km×4 周)

[5]大会結果 総合 8 位 年代別 1 位

総合タイム 2 時間 14 分 17 秒 S:26 分 39 秒(9)B:1 時間 5 分 49 秒(6)R:41 分 49 秒(18)

<50-54 歳男子> 1 位 福元 哲郎 (広島)、2 位 早川 真 (岩手)、3 位 岩淵 貴光 (岩手)

【感想と想い】

前半戦ランキングイベントとしては折り返しと位置付けていた大会です。昨年も足のケガもあったのですがこの時点では 3 位折り返しで 50 歳になって「いける！」と思っていたことと真逆で現実を突きつけられていた時期。

今回は、東日本の震災から 12 年たった仙台で開催され、私には相性の良かった(震災を挟み総合優勝 6 連覇)大会でもありました。地元にとそのころ知り合いファンになってくださった方と宿を共にすることもできました。広島からは一緒に中学生の時から憧れを持たれている大学生(伸び盛りの選手)とも同伴しての遠征でした。

というのも宿泊は復興を遂げて懸命に立ち直っている旅館へ泊ってほしいと地元のファンから要望があり利用。その主人が震災当時の思い出したくないことを思い出しながらのお話は、こちらの西日本豪雨災害の想いも重ね合わせて命に対して、生き方に対して考える時間にもなりました。

そんな中で開催されたレースは東北のイメージとは違い快晴の暑いレースでした。スイム、バイクと順調に追い上げ、なんとバイク終了時点では総合 4 位で行っていることをリザルト(大会結果)で知りました。時間差スタートなのでリアルな現在地が分からない昨今のレースは少しやりにくさ戦いにくさがあります。現在は足を痛めてランの練習がこなせていないこともあるのかもしれませんが、とにかくランの前半が異常に走れないのです。後半は持ち直すので走力がどおのではないことはわかっています。遅いのにつくって止まりそうになる感じです。これは自分でもわからない状況です。

仕事、また人生においても同じようなことがあるのではないのでしょうか？自信が無くわからないが、アンテナを張ってとにかくあきらめない…続けていれば何とかなる！解決できる！信じて前を向く！シーズン最後は笑顔で喜んでいる姿をイメージする(想う)【メンタルスキル】今はそんな状況です。

レースもやってみなければわからない。そんな分からないことに人生を投じて行っていることは、実は仕事や生き方においては有利に働きます。どうなるのか分からないこと、関係ないと思うことを大切なレベルと同じように保てる生き方。その生き方をしている人は全力で駆け抜けていける。関係ないと思うことを無視して断崖絶壁にしまえば、今まで気にすることなく進んでいた道が全力で進めなくなる。分かりにくいかもしれませんが、今スポーツを仕事にできている人生は、明日が分からなく不安いっぱいなのに、やりがいがある！楽しい！といえるのです。

おかげさまでランキング自体は取り切った最高点トップで折り返します。信じるということがこんな形になるのだな、、、とびっくりしてもらえるシーズンを送っていきますので、今後ともよろしく願いいたします。

プロマインドトライアスリート 福元テツロー







